

東久留米市立第二小学校 第1学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	<ul style="list-style-type: none"> 言葉のまとまりを捉えることができず、音読が正しくできない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文の区切りが分かるように一斉に音読する。単語の意味が分かるように言葉を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎9割の児童が、言葉のまとまりを捉えて、音読をすることができる。
	<ul style="list-style-type: none"> 生活文を書くときに、自分の行動や気持ちをどのように文章にしていくなか分からない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 書く前に、教師のモデル文を紹介したり選択肢を示したりする。児童同士で、ペアで題材について話す活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎8割以上の児童が、100字程度の文章を書くことができる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 数の大きさの認識や、量感、文章を具体的にイメージすることができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 長さやかさ、時間を体感することのできる教材を工夫し、文章問題を実際に活動させたり絵や図を描かせたりする活動を授業に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎8割以上の児童がワークテストで90%を達成することができる。
	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な計算の習熟に個人差がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 計算カードや練習問題を定期的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎8割以上の児童がワークテストで90%を達成することができる。
生活	<ul style="list-style-type: none"> 自分で活動内容を考え、創意工夫して活動する経験が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎学期1単元は、自分で活動内容を考え、試行錯誤しながら人や自然との関わりが深まるような単元計画で学習を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎9割の児童が部分的であっても自分で活動内容を考え、試行錯誤しながらの活動を体験できるようにする。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> リズムを正しく打てない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 「たん」「うん」など、言葉でもリズムを打つ活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎リズムを正しく打てる児童が7割を超えるようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> 歌を歌うことはできるが、歌に合わせて歌い方を工夫したり体を動かしたりすることができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> グループや学級の友達と一緒に活動したり、お互いの活動を見合ったりする活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎7割以上の児童が、歌に合わせた身体表現や表情豊かに歌うことができる。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 「はさみで切る」、「色をはみ出さずに塗る」などの基本的な技能が苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な道具の使い方の指導や簡単な活動を入れ、技能を高める。苦手な児童には個別指導の時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎8割以上の児童が「塗る」「貼る」「切る」「折る」の基本的な技能を身に付けることができる。
	<ul style="list-style-type: none"> 自分の発想を表現できず、手本と似たような表現をしてしまう児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品を作る前に、どんな作品にするか発表したり、互いの作品を見合う時間を確保したりし、発想力を養うようにする。 簡単な試しの作品を作ることで、自分の想像力を広げることができるような学習過程を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分で発想できない児童のうち、5割以上は自分で発想できるようにする。

体 育	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な基本的な体の動きの経験が少なく、動きのぎこちない児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・走る、跳ぶ、回転する、ぶら下がる、投げるなどのいろいろな動きを身に付けるための運動遊びも取り入れた授業構成を考える。 	<p>◎単元に3回以上必要な動きの運動遊びを取り入れ、児童全員にいろいろな動きを体験させるようにする。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・運動経験が少ないため、自分の力で体を支えたり、ぶら下がったりすることに怖さを感じる児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲をもって取り組めるように、様々な場を用意し、児童が選べるようにする。 ・感覚をつかませるために、支えるなどの補助や補助具を利用する。 	<p>○8割以上の児童が、どの運動にも安心して取り組むことができる。</p>
徳 特 別 の 教 科 道	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の内容を自分のこととして考えることができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割演技や疑似体験を通して教材の主人公の気持ちに寄り添えるようにし、自分のこととして捉えられるようにする。 	<p>◎7割以上の児童が、ワークシートに自分のこととして捉えて書くことができる。</p>

東久留米市立第二小学校 第2学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	・文章の大体の内容は読み取れるが、細かい内容まで読み取れていない児童がいる。	・段落、場面、接続語、挿絵など着目するポイントを具体的に示す。	◎8割の児童がテストで80%達成することができる。
	・漢字を文章中に正しく使用することができない児童がいる。	・漢字の書き方だけでなく、使い方が分かるように文章の中で書く練習を単元に1度行う。	◎8割の児童が既習漢字を文の中で正しく使うことができる。
算数	・繰り上がりや繰り下がりやの筆算では、時間がたつと計算方法を忘れてしまう児童がいる。	・朝学習や宿題で、既習の計算を繰り返し行う。	◎技能面において8割の児童が計算練習やミニテストで80%以上を達成することができる。
	・量の単位と測定の学習（時間、かさ、長さ）では、正確に測定・表記することが苦手な児童がいる。	・朝学習や宿題で、測定・表記の練習を繰り返し行う。	◎量と測定の学習において8割の児童が計算練習やミニテストで80%以上を達成することができる。
生活	・相手意識をもったり、活動を工夫したりすることが難しい児童がいる。	・相手意識をもたせるために、中間発表等の活動を工夫する単元を学期に1回行う。	◎生活科のカードで8割の児童が相手意識をもったり、活動を工夫することについて表現したりすることができる。
	・様々な体験を通して、気付いたことや自分の思いを表現する力を伸ばす必要がある。	・学習カードや発表会など様々な表現方法を体験させる。	◎9割の児童が個人の気付きや思いを表現することができる。
音楽	・すすんで歌ったり、演奏したりするが、曲想や全体の演奏と合わせて表現することができない児童がいる。	・友達同士で歌い方を考えたり、動きを真似したりさせるなど、活動方法を工夫する。	◎発表会を学期に1回以上行い、8割以上の児童がすすんで表現できる。
図画工作	・豊かな発想に欠けてしまい、似たような表現をしてしまう児童がいる。	・試行錯誤できる時間を毎単元に1回確保し、豊かな発想をできるように鑑賞の時間を設け、様々な作品に触れられる機会を設ける。	◎鑑賞カードに8割以上の児童が自分や友達の作品の良さについて気付いたことを書くことができる。
体育	・運動が好きな児童と苦手な児童の意欲の差が大きい。	・自分のできたことをカードに記入させ、自分の成長に気付かせる。	◎8割の児童がカードに運動に対する前向きな言葉を記入することができる。
	・活動の場の設定やルール等が児童に合っていないことがある。	・児童が自分に合った場を選んで取り組めるよう、複数の場の設定を工夫する。	◎8割の児童が、自分に合った場を自分で選んで、運動をすることができる。
道徳 特別の 教科	・自分のこととして捉えられない児童がいる。	・役割演技や動作化を毎学期2回以上取り入れ、毎時間学習カードで活動後に気付いたことや考えたことを振り返らせる。	◎学習カードに8割以上の児童が自分のこととして捉えている文が書ける。



東久留米市立第二小学校 第3学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	<ul style="list-style-type: none"> 話の内容を聞き取り、その内容に対して適切に質問する力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞き取った内容に対してさらに深めるための質問をする場を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 2学期以降の話すこと・聞くことの2つの単元で、確実に位置付ける。 ○ 7割以上の児童が、適切に質問することができる。
	<ul style="list-style-type: none"> 内容を整理して、観察したことをひとまとまりの文章にまとめることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察文に限らず、「はじめ」「中」「終わり」の形でひとまとまりの文章にまとめる経験を積ませる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 月2回以上短作文に取り組む時間を確保し、短時間でひとまとまりの文章を書くことに慣れさせる。 ◎ 7割の児童が15分で150字程度の文章をまとめることができる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 感染症予防対策から校外学習を実施するのが難しく、東久留米市の特色を捉えるのが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 東久留米の特色に関心や興味が高まるように、GIGAタブレット等を効果的に使用して学習計画を立てる。また、学習したことを新聞やノート、カードにまとめ、発表の際に資料の提示を工夫させる機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 8割の児童が、東久留米市の特徴についてまとめることができる。
	<ul style="list-style-type: none"> 資料を見て読み取ることが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> どの資料から何を読み取ったかを確認しながら学習をすすめていく。 ペアで話し合うなどの少人数の活動を通して、自分の考えをもてるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 8割の児童がペア学習等をおして自分の考えをもてる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 量感が乏しく、生活とつなげて適切な単位を選ぶことや、単位の換算がうまくいかない児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間、長さ、単位を扱う授業の時、具体的に想起できる教材を提示し繰り返し習熟させる。 単位換算についても、繰り返し演習する時間をとり、習熟を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ プリントなどを活用し、理解度を把握する。 ◎ 8割の児童がワークテストで80%を達成することができる。
	<ul style="list-style-type: none"> 解き方やその理由について、自分の考えを説明できる児童がやや少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを図や式、文章で表すことができるようにする。 単元に1回は、自分の考えを交流することを活動の中心に位置づけた時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 8割の児童がノートに自力解決を行い、発表できる。
	<ul style="list-style-type: none"> 直角三角形や立体図形を構成する辺・面・角などの概念が乏しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 図形の学習において、模型を用いたり、様々な形を分類・整理したりする算数的活動を重視し、児童が実感を持った理解ができるような場面を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ プリントなどを活用し、理解度を把握する。 ◎ 8割の児童がワークテストで8割の得点をとることができる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 自分の思いを言いたくて友達の意見を聞き入れられない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験で使う教材の組み立てを自分たちで行わせ、やり方などを児童間で教え合うような場を設定する。 問題作りをする場面で「クラスみんなで考えていくような内容を取り上げよう」とテーマを決め、友達の考えを取り入れながらみんなが分かる問題を作っていく場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 8割以上の児童が友達の意見を受け入れながら話し合いをすることができる。
	<ul style="list-style-type: none"> 観察した後に気付いた事や思ったこと、疑問を書けない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察カードを繰り返し書き、その都度、気付いた事、思ったこと、疑問を書き出すように指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 8割以上の児童が気付いた事や思ったこと、疑問をカードに書くことができる。

音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の学習に意欲的に取り組む児童が多いが、技能の習得に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・短いフレーズに区切って練習を進めたり、段階的にステップアップができるような学習内容を提示するなどして、学習形態を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全体指導と個別指導とを効率よく組み合わせ、一人一人の学習の到達度を把握する。 ◎8割以上の児童が、拍の流れにのって簡単なリズムや短い旋律を演奏できる。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・より良い作品にしようと初めの構想に新たな考えを加えて作品を仕上げていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品例を紹介したり、アイデアスケッチを描かせたりして、イメージを膨らます時間を確保する。 ・単元中に制作過程の作品を実物投影機を活用して紹介をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎7割の児童が想像を膨らますことができる。 ◎2、3学期で2単元程度、児童が作品を紹介する時間を設定する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・友達の作品に対して興味をもっているが、感じたことを伝え合う力が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの単元では、友達の作品を観点をもって見合う時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎8割の児童が友達の工夫や良さに気付き、ワークシートに書いたことを伝え合うことができる。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・運動経験が多い児童が中心になりがちな授業を、みんなが楽しく参加し、達成感が味わえるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・経験が多い児童も少ない児童も主体的に参加できるように、学び合いの時間を設け、課題解決のために話し合いができるようにする。 ・児童同士の学び合いを促すよう、学習カードに技のポイントを明示して指導に臨む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○2、3学期に取り組むゲームでは、3単元以上で作戦を相談する機会を確保する。 ○器械運動や陸上では学習カードを活用し、7割程度の児童が友達にアドバイスができるようにする。
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・自分事として捉える場面で、なかなか考えをまとめられない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内の「二小クリーニング」の時間で、自分と向き合う時間をしっかりと確保する。 ・ペアや小グループ討議などの意見交流の場を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシートを活用し、多面的・多角的な思考を確認する。 ○7割の児童が自分の考えを発言できる。
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に発言しようとする意欲はあるが、相手を意識しながらコミュニケーションを取る工夫はあまりみられない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを円滑にする手だてとして、「挨拶」「相槌」「身振り」「表情」などを取り入れる。 ・毎回絵カードの提示や台詞のモデル文を視覚化し、安心してコミュニケーションを図れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○8割の児童がコミュニケーションを円滑にする手法を用いながら、外国語を用いてすすんで交流活動に取り組むことができる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・慣れ親しむ時間が充分に取れないまま、言語を使用するため、間違いを恐れて自信がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・インプットの時間を有効に活用し、慣れ親しむ段階を3つに分けてスモールステップで指導する。 ・3段階（教師のモデルを見て知る、教師を相手に慣れ親しむ、児童同士で使う）を全ての時間に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業中の態度を通して、英語表現に慣れ親しみながら活動できているかどうかを見取る。 ○8割の児童が、単語やセンテンスに慣れ親しみ、自信をもって活動できる。
習総 の合 時的 間な 学	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ活動が十分でないまま、まとめや発表の活動に入り、苦戦する児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題をはっきりさせるための調べ活動を位置付け、内容がある状態でまとめや発表の活動に入るようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○まとめの段階で「書きたいことがない」「何を書くか分からない」という児童が1割を切るようにする。

東久留米市立第二小学校 第4学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	<ul style="list-style-type: none"> 話の内容を聞き取り、要点を捉えてまとめることが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 月に1回以上は、要点をまとめて文に表したり、発表したりする機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎7割の児童が要点をまとめて文に表したり、発表したりする。
	<ul style="list-style-type: none"> 説明文の読み取りでは、筆者の意図を理解することが十分でないため、根拠に基づいて自分の意見をもつことが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一つの結論に関して理由が述べられている部分をカードに抜き出して書き、どのように構造的にならべるとよいかを考える学習を多く取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎7割の児童が自分が考えた順番と他の考えを聞いて並べ替えた理由をノートに文で表す。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 必要な資料を選択したり、資料から分かることを多面的に考えることが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 読み取るポイントを指導したり、毎時間1～3枚程度ノートに資料を貼り、資料から読み取れることをまとめたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎7割の児童は1枚の資料から、複数気が付いたことを書けるようにする。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをもち、説明できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 図や式、文章で表すことができるようにする。1時間に1回は自分の考えを交流できる時間を設ける。 自分の考えをもつために、テープ図や数直線、アレイ図など自分の考えを表現する方法を指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎7割の児童が問題文を図に表してから立式できるようにする。 ○ノートに適切に表現されているかどうかを見て評価する。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 観察したときに気付いたことや考えたこと、浮かんだ疑問をカードに表現しない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察の観点を増やし、前回のカードを参考にして現在との比較を通して、変化の様子その理由を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ワークシートの表に観点別に変化のようすとその理由を書かせ、言語化できた部分には色を変えて丸を付ける。丸の数を増やしていく。
	<ul style="list-style-type: none"> 実験で使う機材を自分で組み立てるようになってきたが、不調がある場合、自分で修正できない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 特に電気のモーターカー作りにおいて直列、並列のつなぎ直しなど作成→分解→他の回路を作成→分解→元の回路に作成など意図的に修正する場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎8割の児童が自分で修正できるようにしていく。
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 音楽の学習に意欲的に取り組む児童が多いが、技能の習得に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 短いフレーズに区切って練習を進めたり、段階的にステップアップができるような学習内容を提示したりして、学習形態を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○全体指導と個別指導とを効率よく組み合わせ、一人一人の学習の到達度を把握する。 ◎8割以上の児童が、拍の流れにのって簡単なリズムや短い旋律を演奏できる。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 意欲的に活動しているが、色を作ったり、細部を表現することが苦手だったり、時間内に仕上げることが困難な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな道具の使い方や表現の仕方を身に付けさせるために図工ノートに技能ポイントを書かせる。 技法の見本作品を充実させ、表現の見通しをもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎9割の児童が道具の使い方を理解する。 ○毎時間、制作過程を観察する。
	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の能力や思いに寄り添うような個別指導が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業中に一人一人のつぶやきを、授業後に進度を把握し、個別指導を適宜行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ノートを書かせることを単元に3回以上行い、つまずきや技術について確認する。

<p>体育</p>	<p>・自分の苦手な運動になると、すすんで学習をしようとしなない児童がいる。</p>	<p>・場やルールの工夫を行うことで、運動経験が不足していても活躍できる場を設け、運動の楽しさを味わえるようにする。</p>	<p>◎単元に3回以上、めあてに沿って、良かった所やできるようになったことを取り上げ評価し、児童にも発言させる。 ◎器械運動では、単元に三回以上学習カードを通して自分が取り組んでいる段階を可視化する。</p>
<p>道徳 特別の 教科</p>	<p>自分の意見や考えを発言できない児童がいる。</p>	<p>・役割演技を行い、実際に自分が考えた言葉を言わせるなど、創造的に表現する場を経験させる。</p>	<p>◎月に一度、ワークシートの吹き出しに、全員が自分の考えを多面的に書けるように、交流を図ったうえで書き込ませる活動を取り入れる。</p>
<p>外国語 活動</p>	<p>・全体指導の中では、言葉の言い方を理解できるが、アクティビティーなどの場面では、スムーズにコミュニケーションをとることができない。</p>	<p>・インプットの時間を3つのスモールステップ（教師のモデルを見て知り、隣の児童と役割を交代して慣れ、自由に相手を変えて行う）に分け、毎時間必ず行う。</p>	<p>◎8割以上の児童が外国語を用いてすすんで交流活動を行う。</p>
<p>の総合的 時間な 学習</p>	<p>・資料を写すことが多く、自分なりに考察を加えたり、新たな疑問をもったりすることができない児童が見られる。</p>	<p>・情報収集の時間と情報を整理する時間、最後に整理した情報から分かることや自分の考えを書く時間の3つの段階に分ける。</p>	<p>◎7割の児童が、収集した情報と自分の考えを結び付けて表現する。</p>

東久留米市立第二小学校 第5学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章全体の構成を捉えて要旨を把握するとともに、要旨に対して自分の考えをもち、表現することが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> キーワードや指示語、接続詞を手掛かりにすることで、段落相互の関係を捉え、要点や要旨を捉えやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元ごとに、要点や要旨を的確に読み取り、自分なりの考えをもっているかノートや発言で確認する。 ○8割の児童が要点や要旨を読み取り、自分なりの考えをもつことができる。
	<ul style="list-style-type: none"> 物語を読むことは好きで、主人公の行動から心情を読み解くことはできる。 主題を考え、主題に対する自分の考えを表現することが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構造や内容を的確に理解させる。 文章を読んで得た自分の思いや考えを友達と共有する場を設け、自分の考えを広げることができるようにする。 物語文の学習では、心情を読み取る活動を毎時間積極的に取り入れるとともに、自分の考えを全体で共有する時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎8割の児童が自分なりの考えを表現できる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読み取り、必要な情報を抜き出したり、資料から分かることを多面的に考えたりすることが苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読み取る活動を設け、資料の選択から抜き出すためのポイントを指導する。 資料内容の精選をするとともに、視聴覚機器や拡大資料などを利用し、分かりやすく資料を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎社会のワークテスト（知識・技能）で8割の児童が80%を達成することができる。
	<ul style="list-style-type: none"> 学習した内容に対して自分の考えをもつことが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ペアやグループ活動を通じて、友達の意見を取り入れながら自分の考えをまとめる時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○8割以上の児童が自分の考えをまとめることができる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 小数のかけ算やわり算の筆算を正しく計算することができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> がい数で答えの見当を付けさせてから計算させる。 小数点や空位の扱い、筆算途中での繰り上がり、繰り下がりに注意させる。 単元の内容に関するプリントで復習させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○プリントなどを活用し、理解度を把握する。 ○8割の児童がワークテストで80%を達成することができる。
	<ul style="list-style-type: none"> 問題を読み解いて、条件に当てはまる式や答えを導き出せない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを図や言葉で説明することで、内容を理解した上で立式できるようにさせる。 文章題における必要な数値に線を引いて立式させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○8割の児童が情報を選択し、条件に合う式を立てることができる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 条件設定の意図を捉えていない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題文や図をよく読み取る場を多く設定し慣れさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎8割の児童が意図を捉え問題解決できる。
	<ul style="list-style-type: none"> 実験や観察を自分なりの方法で取り組めない児童がいる。（すぐ友達に聞いてしまう） 	<ul style="list-style-type: none"> 自力解決の時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎8割の児童が自分なりの方法で実験・観察に取り組める。

音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽の活動には意欲的に取り組む児童が多いが、発言などは一部の児童に偏ってしまいがちなので、一人一人の学習状況を把握する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の内容やめあてを分かりやすく板書したり、ワークシートで個人の考えを書かせたりする。 ・全体指導での挙手発言だけでなく、小グループや自由交流などの時間を適宜設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○8割の児童が自分なりの思いや意図をもって活動に取り組める。 ◎鑑賞や表現の工夫については適宜ワークシートを活用し、一人一人の学習状況を適切に見取る。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・時間をかけて丁寧にやろうとする児童が多く、作業が時間内に終わらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の導入で、計画した時間で終わらせる理由を伝え、見通しをもって活動に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎毎時間、図工ノートに、計画やめあてを書かせ、見通しをもっているか確認する。 ◎8割の児童が見通しをもつことができる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲的に活動しているが、発想を深めたり、細部の表現を作りこんだりすることに時間をかけてしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書、イラストカット集などの資料を活用し見本作品に触れさせ、制作の見通しをもたせる。 ・作品作りのはじめに、クロッキーブックに自分の作品の構想を練らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○8割の児童が、計画された時間で発想を深めたり、作品を作りこんだりし、時間内に作品を完成させる。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・玉結び、玉どめや縫い方等の技術が定着していない児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実物投影機や動画等を用いて手指の動きを理解させるた上で、繰り返し練習する時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎実技のテストにより技能の見取りを行う。 ○9割の児童が玉結び玉どめができるようになる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容について、家庭での実践に意欲をもてない児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の内容や習得した技能を家庭でも実践することができるよう、課題を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭での課題を全ての児童が提出することができる。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の苦手な運動になると、すすんで学習することが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・場やルールの工夫を行い、活躍できる場の設定をすることで各領域の運動の楽しさに気付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○毎時間の振り返りでめあてに沿って良かったこと、できるようになったことを教師が取り上げ、児童にも同じ視点で発言をさせることで評価していく。
	<ul style="list-style-type: none"> ・運動が得意な児童とそうではない児童の差があり、技能差が生まれている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な技能の定着を図るために、単元を通して主運動にあった感覚づくりの運動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○8割の児童が運動の仕方を理解し、運動の特性に合った技能を身に付ける。
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の内容を自分事として捉えることができない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入で児童の実生活について取り上げる。 ・教材文から離れて価値項目について話し合う時間を十分に確保する。 ・毎時間のワークシートに自分の心の深まりや広がりを記述する欄を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎8割の児童が自分事として捉え、ワークシートに自分の考えを書くことができる。

外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・発音が分からず、声に出せない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームを通して、単語を繰り返し覚える機会を多くとり、自信をもたせる。 ・児童が安心して取り組めるように、毎時間、英語の音声やリズムに慣れ親しむことのできるゲームを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 8割の児童が自信をもって簡単なセンテンスを表現できる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲームなどで友達との英語を使ったコミュニケーションは楽しむが、一人で英語を話すことには、自信がない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間、学習する簡単なセンテンスを明確にすることにより、自分のことや身近な事柄について伝え合うことができるようにする。 ・センテンスの練習を毎時間取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 9割の児童が簡単なセンテンスを使ってコミュニケーションを図る。
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を写すことが多くなり、自分なりの考察をもってまとめることが苦手な児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を収集する時間と整理する時間を分ける。 ・毎時間の初めに、情報収集を行う時間なのか、情報を整理しまとめる時間なのかを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 7割の児童が、収集した情報から必要な情報を選び、まとめることができる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・最初に設定した探究課題を解決するところで学習が終わってしまっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の探究課題についての学習を振り返る中で生まれた自分の考えや疑問を、ワークシートに記入させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 8割以上の児童が複数の探究課題に取り組むことができる。

東久留米市立第二小学校 第6学年

教科	児童・生徒の学習状況分析 更に工夫したい点	具体的な授業改善策	評価・検証方法、目標値 評価（◎、○、●）
国語	<ul style="list-style-type: none"> 文章の内容や構成を押さえることはできるが、筆者の主張に対して自分の考えを明確にし、表現することに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを的確に表現できるよう文章構成（はじめ、中、終わり）を意識して書く活動（日記や作文等）を計画的に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎8割の児童が構成（始め中終わり）を意識して書くことができる。
	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な語彙力が不足しているとともに、文章中に既習の漢字を適切に使うことに課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の漢字の学習課題を繰り返し行い、漢字を文中に意欲的に使う習慣を付ける。 俳句や短歌、詩の学習において表現を工夫させることにより語彙量の増加を試みるとともに、より適切な表現について考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎8割の児童が、ノートや作文、テストなどで、既習の漢字を正しく使うことができる。
社会	<ul style="list-style-type: none"> 歴史の学習において事実のみならず、時代の背景や人物の気持ちを考えることが必要であると考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の語句を覚えることだけが目的にならないように、時代の流れや背景を踏まえて「なぜ・どうして」を児童が考えるような授業計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎歴史の学習では、資料の精選を行い、効果的な資料を提示する。 ◎8割の児童が資料を自分なりに読み取れる。
	<ul style="list-style-type: none"> 学習した内容の要点や自分で考えたことを自分の言葉でまとめることが難しい児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習した内容を自分が友達に教えられるようにするというめあてで要点をまとめさせ、交流する時間を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○新聞やノート、発言により、児童の考えを確認する。 ○7割の児童が学習内容の要点を交流することで、学習を深めることができる。
算数	<ul style="list-style-type: none"> 計算はできるが、文章題を苦手とする児童がいる。 習熟の差が大きく、習熟度別指導について検討を加えていくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 習熟度別指導の中で、個々の児童に対応できる簡単な内容の課題を用意したり、指導の手順を工夫したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ノートにより、個々の児童の理解度を把握する。 ◎8割の児童が、既習事項を理解することができる。
	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に言葉や式、図、表、グラフなどを用いて、筋道を立てて説明したり論理的に考えたりする力に課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを図や言葉、式で表現し、考えたことを筋道を立てて説明する機会を多く設け、グループや全体で説明し合う授業展開を構成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○单元ごとに発言やノートで論理的に考えているか確認する。 ○7割の児童がノートに筋道を立てて自分の考えを書くことができる。
理科	<ul style="list-style-type: none"> 様々な現象について、自分の感じたことを表現することの苦手な児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 不思議に思ったこと、初めて知ったこと等視点を提示し、自分なりの言葉で表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○8割の児童が問題を作るために必要な気付きを発言または、記述で表すことができる。
	<ul style="list-style-type: none"> 学習したことを生活面に生かせない児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> てこの学習では、くぎ抜きや缶切りなどに取り組ませ支点、力点、作用点の場所を把握させ、実際にこを使うことで、道具を使えるか取り組む場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○8割の児童が道具を使いこなす経験ができるようにする。

音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱領域の全体指導の中で、自信をもって歌う児童と、自信がもてず全体の中に紛れて歌う児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「音をしっかりと伸ばして歌う」など、聴く観点を明確にし、ペアで聴き合う活動を取り入れ、机間指導を充実させる。 ・変声期の児童にも配慮しながら学習の雰囲気をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○8割の児童が身体的距離を取り、互いに聴き合える声量を継続的に出すことができる。
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> ・関心をもって活動しているが、アイデアを深めたり、まとめたりすることに時間のかかる児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書や図鑑、見本作品等の資料を活用し、発想を広げさせる。 ・単元のはじめに、児童の作品や事前に準備した作品を見せ、制作の見通しをもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎図工ノートに、毎時間、計画やめあてを書かせ、見通しがもてたか確認する。 ◎9割の児童が見通しをもつことができる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・キャラクターなど既成のものをそのまま取り入れてしまい、自分の発想や構想に生かせない姿が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な材料を用意し、作品例を紹介して作品の幅が広がるようにする。 ・作品を取り組む前に、想像が広がるようにクロッキーブックにデザインを複数パターン描いたり、材料に触れたりする時間を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各単元において、作品作りのはじめに、クロッキーブックに自分の作品の構想を練らせることにより、見通しがもてたか確認する。
家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲や関心は高い。 ・家庭での生活体験の差による技能の差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・導入を家庭生活の振り返り、まとめを家庭生活への取り組みにすることにより、学習内容が家庭での実践につながるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎単元ごとに実践の振り返りを書く時間を設ける。 ○家庭生活での自分の実践を8割の児童が書ける。
	<ul style="list-style-type: none"> ・学習したことを家庭生活で実践している児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業において家庭での経験を話し合う内容を設定するなど、学習と実生活を結び付けるような授業展開を構成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元ごとに自分の実践を紹介する機会を設ける。 ○7割の児童が家庭で既習内容の実践を行うことができる。
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の苦手な運動になると、すすんで学習することが難しい児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス全体で協力しながら、すすんで学習することができる大きな目標を立てる。 ・運動機材やルールの工夫を行い、活躍できる場の設定をすることで各領域の運動の楽しさに気付けるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎各単元において、学習内容に合った楽しさを味わえる学級の課題をつくる。毎時間、学級の課題を提示することにより、児童が自分の課題を明確にして運動できるようにする。 ○7割の児童が、自分の課題に沿った学習の場で、すすんで運動を行うことができる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・運動が得意な児童とそうではない児童の技能差があり、技能が低い児童の意欲の低下が課題として挙げられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人の課題解決ができる場を設け、できるようになったことなどを振り返ることで、単元を通して技能の伸びが実感できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○単元ごとに、個人差に合った場の設定や課題の設定を計画する。 ○8割の児童が自分の課題にあった場や教具で運動し、自己の技能の高まりを実感することができる。

特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の本文から、道徳的価値をみいだすことはできる。登場人物の考えや状況について、更に深く考え、日常生活に落とし込んでいくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発問や考える場面を更に工夫し、より深く考えさせたり、違う意見を交流させたりし、自分ならどうするか考えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎毎時間、互いの意見を交流する（付箋交流を取り入れる等）ことにより、多様な考えに触れさせる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えをもつことはできる。多様な考えに触れ、友達の意見を認めながらも、自分の意見をよりよいものにしていくことが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者と意見交流を行うことで、多様な考えを理解し、他者の考えを受け止めたり、取り入れたりすることにより、自分の考えを深めることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎7割の児童が多様な考えを認めることができる。
外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> ・学習には意欲的に取り組む児童が多い。 ・学習内容を定着させるために学習した基礎的な表現を繰り返し練習する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットで扱われる単語は、練習の方法を工夫して繰り返し練習することにより定着を図る。学習するセンテンスを明確にして練習した後、自分の考えや思いを伝える活動を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「やり取り」や「発表」の場面で8割の児童が基礎的な表現を使うことができる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・書く活動への興味が高まっている児童も多いが、自力で書くのは難しい児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートを使い、アルファベットや簡単な単語を書き写す活動を計画的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ワークシート等により、各自の文字の習得を見取る。 ○8割の児童がアルファベットを書き写すことができる。
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習への意欲はあるが、一つの事柄から課題を広げたり、考えを深めたりすることは不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の収集について検討考察し、取捨選択する時間を設けることにより、自分の課題を広げたり、考えを深めたりできるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎発表、作成物等により、単元ごとに各自の学びの広がり（課題の広がりや考えの深まり）を確認する。
	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を写すことが多くなり、自分なりの考察をもってまとめることが苦手な児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・収集した情報をまとめるための時間を十分に確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎8割以上の児童が自分の言葉で調べたことや考えを文章にまとめることができる。